

主 題：キリスト者とは

聖書箇所：コロサイ人への手紙 3章5-14節

1. 序

パウロはピリピ人への手紙3：20でこのように言っています。「けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。」、現実には、ここにいる私たちの多くは日本国籍です。なかには違う国籍の方もおられるでしょうが、どちらにしても、国籍がどこであってもそれはこの地上のことです。パウロは言います。「私たちの国籍は天にあります。」と。ヘブル書の著者はこう言っています。11：13「これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。」と。この13節の主語は「これらの人々」です。信仰の人々です。彼らは告白していたのです。自分たちはこの地上では旅人であること、また、寄留者であることを…。寄留者とは国語辞典によると「一時的に他所の土地、または、他人の家に仮に住むこと」です。

今日、私たちはコロサイ人への手紙3章5節から学んでいきます。コロサイ書3章の冒頭でパウロはこのように言います。3：1-2「こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。：2 あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。」と、パウロはこのように勧めてから、5節から「クリスチャンとは如何なる者たちのことを言うのか？」について私たちに教えています。

2. キリスト者とは（クリスチャンとは？）

3：9-10を見ると、パウロはキリスト者とはこのような人たちのことだと記しています。「互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは、古い人をその行いといっしょに脱ぎ捨てて、：10 新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」。キリスト者とは「古い人を脱ぎ捨てて新しい人を着た者たち」であると教えます。エペソ人への手紙4：22-24でもパウロは同じことを教えています。「：22 その教えとは、あなたがたの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと、：23 またあなたがたが心の霊において新しくされ、：24 真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。」、ここでもパウロは「古い人を脱ぎ捨てて新しい人を着るべきだ」と言っています。ローマ6：6-18にも同じことが書かれています。「：6 私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだを滅びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。：7 死んでしまった者は、罪から解放されているのです。：8 もし私たちがキリストとともに死んだのであれば、キリストとともに生きることにのみなる、と信じます。：9 キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことはなく、死はもはやキリストを支配しないことを、私たちは知っています。：10 なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。：11 このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者だと、思いなさい。：12 ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従ってはいけません。：13 また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。：14 というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の下にはなく、恵みの下にあるからです。：15 それではどうなのでしょう。私たちは、律法の下にはなく、恵みの下にあるのだから罪を犯そう、ということになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。：16 あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。：17 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、：18 罪から解放されて、義の奴隷となったのです。」。

「キリスト者」はギリシャ語では Christianos ということばが使われています。このことばは新約聖書に3回使われています。使徒の働き11：26「彼に会って、アンテオケに連れて来た。そして、まる一年の間、彼らは教会に集まり、大ぜいの人たちを教えた。弟子たちは、アンテオケで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。」、同じ使徒26：28「するとアグリッパはパウロに、「あなたは、わずかなことばで、私をキリスト者にしようとしている」と言った。」、Iペテロ4：16「しかし、キリスト者として苦しみを受けるのなら、恥じることはありません。かえって、この名のゆえに神をあがめなさい。」。この3箇所とも、新改訳聖書では「Christianos」ということばで「キリスト者」と訳されています。「キリスト者」はギリシャ語の「キリスト」と語尾にラテン語の「～に属する」という意味を持つことばとなっています。だから、

「Christianos」ということばは「キリストに属する者がキリスト者である」と教えています。この世から選り出されて、救われて、キリストに属する者となって、また、キリストにすべてを依存するようになった者、それがキリスト者であると言えるのです。

パウロはここでキリスト者とは古い人を脱ぎ捨てて新しい人を着たものであると教えています。私たちは古い人はどのような人たちなのか？また、新しい人がどのような人たちのことを言うのか？そのことをみことばから学んでいきます。

2. 古い人 : 生まれたまま(救われる前)の古い性質や行ないによって歩んでいた者

これは年老いた人を言っているのではないことは皆さんご承知です。「古い人」とは、救われる前の生まれたままの古い性質や行ないによって歩んでいた者、あるいは、歩んでいる者たちを指しています。パウロはコロサイ3:5から特徴を教えてください。

1) 特徴 3:5-9

3:5「ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。」、ここに五つの特徴が書かれています。

a. 不品行 : 性的不道徳

b. 汚れ : 不道徳な行ない

この二つはどちらも私たちの外に表われる行為です。

c. 情欲 : 特に制することのできない性的欲求

d. 悪い欲 : 悪い思い

この二つは私たちの心の中に生じる思いです。

e. むさぼり : このことばはギリシャ語でプレオネクシアと言い「多くの物を持つこと」という意味で使われています。「むさぼり」ということば自体は単に所有する欲望ではなく、他人がもっているものまでも手に入れようとする、そのような不法な態度です。Iテサロニケ2:5でパウロはこのように言っています。「ご存じのとおり、私たちは今まで、へつらいのことばを用いたり、むさぼりの口実を設けたりしたことはありません。神がそのことの証人です。」と。

バークレーはこの「むさぼり」についてある書にこのように記しています。「もし、お金が欲しいと思ったなら盗みをする。もし、名誉や名声を得たいと思ったなら、たちの悪い野心さえ持つ。もし、権力を得たいと思ったなら、横暴な専制君主にさえなる。もし、だれかを得たいと思ったなら、性犯罪さえ犯す。」と、これが「むさぼり」だとバークレーは教えています。

そして、パウロはこの5節で「殺してしまいなさい」と命令しています。これは「ある部分が腐ってしまって、他の良い部分に悪い影響を及ぼさないように、その腐った部分を切り落としてしまいなさい」ということです。パウロはこの5節で古い人の特徴を五つ教えた後に、8-9節ではさらに、古い人の特徴を六つ挙げています。「:8 しかし今は、あなたがたも、すべてこれらのこと、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを、捨ててしまいなさい。:9 互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは、古い人をその行いといっしょに脱ぎ捨てて、」

f. 怒り : 憎悪の態度、絶えず憎しみで心をくすぶらせ、煮え立たせる状態です。私たちはこの「怒り」を実際に知っています。日常生活の中で実際に「怒り」を持つからです。だから、「怒り」がどのようなものかを私たちはよく理解することができます。

g. 憤り : その怒りがことばや行動に爆発した状態が「憤り」です。激しく燃えさかる怒りの感情です。

h. 悪意 : 人を傷つける態度、ゴシップです。

i. そしり : 他人に対する悪口

j. 恥ずべきことば : わいせつなことば、みだらな表現のことばです。

k. 偽り : うそ、真実でないことです。

「そしり」「恥ずべきことば」「偽り」を見ると、これらの三つとも私たちの口から出る「ことば」に関係しています。

☆「ことば」

ことばは時に取り返しのつかない状況に私たちを陥らせたり、また、人間関係においても、ことばが原因になることが多くあります。ことばは、人を癒すことも、人を傷つけることもできます。私たちは自分の口から出ることばに注意をしなければいけません。みことばは言います。「口から出るものは心から出て来ます」と。私たちの思ったことが私たちの口を通してことばとなって出て来るのです。このことをヤコブはこのように私たちに教えています。ヤコブ書3:2、9-10「:2 私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。もし、ことばで失敗をしない人がいたら、その人は、からだ全体もりっぱに制御できる完全な人です。…:9 私たちは、舌をもって、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどっ

て造られた人をのろいます。:10 賛美とのろいが同じ口から出て来るのです。私の兄弟たち。このようなことは、あつてはなりません。」と。また、マタイ15:18には「しかし、口から出るものは、心から出て来ます。それは人を汚します。」と書かれています。

☆「捨ててしまいなさい」

コロサイ3章に戻って、パウロは「そのようなものは捨ててしまいなさい。」と言っています。これは「追い出す、無用なものは捨てる」という意味です。みことばを見ましょう。ローマ13:12「夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。」、エペソ4:22、25「:22 その教えとは、あなたがたの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと、…:25 ですから、あなたがたは偽りを捨て、おのおの隣人に対して真実を語りなさい。私たちはからだの一部として互いにそれぞれのものだからです。」、ヤコブ1:21「ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。」、1ペテロ2:1「ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、」。

キリスト者とは古い人を脱ぎ捨てて新しい人を着たものであるとパウロはこのコロサイ書3章で教えています。

2) 古い人の姿 3:7

パウロは古い人の姿をこのように教えています。コロサイ3:7「あなたがたも、以前、そのようなものの中に生きていたときは、そのような歩み方をしていました。」、「そのような歩み方」とは「罪に支配された歩み」です。罪によって支配された生活をしていたのです。このことをパウロはエペソ2:1-3でこのように言っています。「:1 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であつて、:2 そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の權威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従つて、歩んでいました。:3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあつて、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」と。罪によって支配されていた私たちのかつての古い人の姿を教えています。救われる前の私たちはまさにこのように生きていたのです。

3) 古い人の結果 3:6

そして、パウロはその古い人の結果を私たちにはっきりと教えています。コロサイ3:6「このようなことのために、神の怒りが下るのです。」と。この箇所は聖書の欄外の注には異本として「『不従順の子らの上に』を加える」とあります。前項で見たエペソ2:3に「かつては不従順の子らの中にあつて…」とありました。私たちはそのような者だったのです。そして、その者に「神の怒りが下る」と教えるのですが、全く同じことをエペソ2:3でも「…生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」とパウロは言っています。古い人には、もし、そのままの歩みをしているなら「神のさばき」があるということです。みことばはそのことをはっきりと私たちに教えています。

4. 新しい人

さて、キリスト者とは古い人を脱ぎ捨てて新しい人を着たのです。そのような者たちであるとコロサイ3:9-10で私たちは知りました。今、私たちは「古い人の特徴」を見ました。今度は「新しい人」とはどういう人のことをいうのか？そのことをみことばから学んでいきましょう。「新しい人」、それは「キリストによって新しく造り変えられた人たち」です。まさに「キリスト者」のことです。パウロはコロサイ3:12で違ふことばをもってこの「新しい人」のことを「それゆゑ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、…」と、このような人が新しい人だと教えています。

「古い人脱ぎ捨てて新しい人を着た」というこの「脱ぎ捨てた」と「着た」という動詞が大切です。この時制を調べると「不定過去分詞」で、これが意味することは「過去に一度きりの行為があつたこと」を示しています。救われた皆さんもたった一度古い人を脱ぎ捨てました。そして、新しい人を着たのではありませんか？たった一度だけです。また、「脱ぎ捨てる」「着る」についてみことばはこのように教えています。ローマ13:14「主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。」、1コリント15:53-54「:53 朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならぬからです。:54 しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた」としてされる、みことばが実現します。」、ガラテヤ3:27「バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。」。キリスト者は「キリストをその身に着た」者たちだと言います。

「新しい人」、これは今までの話で「古い人」と対比されていることは皆さん十分お分かりと思います。これは私たち人間の霊的状态を表わす用語です。大切なのは「新しい」ということばです。ギリシヤ語では「カインス」ということばが使われているのですが、このことばが意味するのは「質的な、内

容の新しさ」です。外見が新しいのではなく、私たちのうちが新しいということです。Ⅱコリント5：17「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」、私たちはこのことを先ほど賛美しました。ゴスペルソング「♪♪だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者、古きは過ぎ去り、すべてが新しい、主のうちにあるなら、すべてが新しい、」、「アーメンです」、「まさに、その通り！」と私たちは言うことができるのではないのでしょうか？私たちのすべてが新しくされたのです。

そして、10節はこのように続きます。「新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、…」と、「造り主のかたち」というと私たちは創世記1章で人が造られた様子を覚えることができます。1：26-27に「神は仰せられた。「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはずすすべてのものを支配するように。」：27神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。」と書かれています。ヘンリー・シーセン著の「組織神学」362ページより抜粋、「神は霊であり、人間のたましいも霊である。霊の本質的属性は、理性と良心と意志である。人間を自分のかたちに創造されたとき、神は霊としてのご自身の性質に属している。これらの属性を人間に付与されたのである。もし、われわれが神のかたちに造られていなかったなら、神を知ることが不可能である。そして、われわれはただ滅ぶべき獣と同じであったろう。」、このようにシーセンは「神のかたち」について記しています。

また、J・I・パッカー著「聖書教理がわかる94章」99-100ページにはこのように書かれています。「人間における神のかたちとはどのようなものであるかについて、創世記1：26-27では規定していない。しかし、文脈から明らかなことは、神は人格的、理性的（すなわち、知性と意志を持ち、計画を立て、それを実行することができる）、創造的であり、ご自身が造った世界を支配することができ、ご自身が造ったものはすべて良かったという点で、道徳的に賞賛されるべきお方である。簡単に言えば、神のかたちとは以上のような神のご性質をすべて含んでいる。」、参考としてお読みください。

そして、新しい人を着た者は「ますます新しくされ、」とあります。これは現在形の受け身で書かれています。それは「神によってさらにキリストに似た者に変えられて」という意味です。私たちキリスト者の「聖化」の過程を示しています。そして、10節は「真の知識に至るのです。」と続きます。「真の知識」とは「みこころを正確に見分ける力」です。同じコロサイ1：9には「こういうわけで、私たちはそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように。」、「神のみこころに関する真の知識」と書かれています。また、ピリピ1：9では「私は祈っています。あなたがたの愛が真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、」とあります。そして、「至る」、「到達する」とパウロは言います。

この10節を分かり易く言うとうこうなります。「イエス・キリストによって新しく造られたキリスト者は、みことばに従うことによって、また、聖霊の働きによって、益々、イエス・キリストに似た者へと変えられ、神のみこころを正確に見分け、みこころを知る者となる。」、このような意味です。

ここまで学んで来て、皆さんはどこかで聞いたことがあるなあと思われたかもしれません。私たちの週報の最初のページの一番上に、今年度の目標「霊的成長」として「人を変える聖霊とみことばに服従することによって、私たちの性質や行ないが神に似たものとなる。」と掲げられているからです。まさに、そのことです。パウロはここでもそのことを教えています。

1) 新しい人の共同体 3：11

さて、新しい人を着たその新しい人の共同体、集まりについてもパウロは11節でこのように教えています。「そこには、ギリシヤ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。」と、冒頭に「そこには、」とあります。これは「真のキリスト者がいる場所」を指しています。その場所は人種や階級、身分、文化などの区別は一切ありません。だから、最初に見たように、パウロが「けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。」と言った、まさにそのことです。そこには何の区別もありません。そして、この11節の後半「キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。」、私たちはキリスト者がいる場所も知りました。

5. キリスト者として : パウロの勧め 3：12-14

そして、この後パウロは、12-14節でキリスト者としてのあるべき姿を教えています。「：12 ……あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。：13 互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。：14 そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。」。12節ではキリスト者のうち、心のことを、13節ではお互いのことを、そして、14節では私たちが包む「愛」について教えています。一つ一つをみことばから見ていきましょう。

1) 自分自身のうちに 3 : 12

a. 深い同情心 : 深い思いやりと配慮をもった心です。ヘブル4 : 15「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした、すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。」、I ペテロ3 : 8「最後に申します。あなたがたはみな、心をつにし、同情し合い、兄弟愛を示し、あわれみ深く、謙遜でありなさい。」

b. 慈愛 : このことばのギリシャ語は「クレーストテース」で「思いやりのあるやさしさ」です。ヤコブ5 : 11に「見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いであると、私たちは考えます。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いています。また、主が彼になさったことの結末を見たのです。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられる方だということです。」とありますが、国語辞典では「いつくしみかわいがること」とあります。

c. 謙遜 : ヘリくだった心、自分をより低くする思いのことです。この謙遜は私たちの実践において本当に難しい心の思いであり、また、行ないであることを私たちはよく知っています。なぜなら、私たちは自分を人よりも高く置きたいからです。ヘリくだりの心を持たないようにと、実は、自分に言い聞かせている自分をうちに見るのです。だから、この謙遜は新しい人の、また、キリスト者の大きな特徴でもあります。箴言18 : 12「人の心の高慢は破滅に先立ち、謙遜は榮譽に先立つ。」、エペソ4 : 2「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、」、I ペテロ3 : 8「最後に申します。あなたがたはみな、心をつにし、同情し合い、兄弟愛を示し、あわれみ深く、謙遜でありなさい。」、I ペテロ5 : 5「同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、ヘリくだる者に恵みを与えられるからです。」

d. 柔和 : 「やさしく穏やかなこと」(国語辞典)です。マタイ5 : 5「柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。」、ガラテヤ6 : 1「兄弟たちよ。もしだれかがあやまちに陥ったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。」、テトス3 : 2「また、だれをもそしらず、争わず、柔和で、すべての人に優しい態度を示す者とならせなさい。」

e. 寛容 : 相手に対して反発心や怒りの心をもたないことです。II コリント10 : 1「さて、私パウロは、キリストの柔和と寛容をもって、あなたがたにお勧めします。私は、あなたがたの間にいて、面と向かっているときはおとなしく、離れているあなたがたに対しては強気な者です。」、I テサロニケ5 : 14「兄弟たち。あなたがたに勧告します。気ままな者を戒め、小心な者を励まし、弱者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。」、II テモテ4 : 2「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」

パウロはこの12節で「身に着けなさい。」と言います。これは命令形です。これは「他に人から見て、自分の特徴であること、これらの同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容などが分かるように持ちなさい」ということを意味しています。このような思いが私たちのうちにあってそれが外に出て行く、それが他の人に見えるように持ちなさいということです。「私は持っているけれど見えないようにしています」ではないのです。それを他の人が見えるように持ちなさい、「身につけなさい」とパウロは命令します。

2) 人間関係において 3 : 13

パウロは12節で私たち自身の心の中のことを勧めています、13節では「対人間関係」のことを勧めています。

a. 忍び合う : 忍耐する

私たちはこの忍耐をお互いに持たなければいけません。エペソ4 : 2「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、」、II テモテ2 : 24「主のしもべが争ってははいけません。むしろ、すべての人に優しくし、よく教え、よく忍び、」。

b. 赦し合う : 相手のことを受け入れる

私たちにとってこの「赦し合う」ことは難しいことです。パウロは13節の後半で「…互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。」と言っています。また、パウロは別の箇所でも同じことを言っています。エペソ4 : 32「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」、II コリント2 : 7「あなたがたは、むしろ、その人を赦し、慰めてあげなさい。そうしないと、その人はあまりにも深い悲しみに押しつぶされてしまうかもしれません。」。また、イエスが弟子たちに教えられた祈りでもそのことが教えられています。マタイ6 : 9-13「:9 だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。:10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。:11 私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。:12 私たちの負いめをお赦しください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。:13 私たちを試みに会わせないで、悪からお救いください。』〔国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン。〕」、ルカ11 : 2-4「:2 そこでイエスは、彼らに言われた。「祈ると

きには、こう言いなさい。『父よ。御名があがめられますように。御国が来ますように。:3 私たちの日ごとの糧を毎日お与えください。:4 私たちの罪をお赦しください。私たちも私たちに負いめのある者をみな赦します。私たちを試みに会わせないでください。』」

ペテロはイエスにこのような質問をしました。マタイ 18 章に記されています。18:21「そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」、これに対するイエスの答えはこうです。22節「イエスは言われた。「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。」。イエスはここでペテロに何を教えようとしたのでしょうか？それは「赦しには限りはない」ということです。赦し合うことには制限がない、無制限だということです。だから、ここでパウロが私たちに教えていること「お互いに赦し合いなさい」ということに数の限りはないのです。「赦さないしもべのたとえ」がマタイ 18:23-35に記されていますが、ここでもそのことが教えられています。

3) 結びの帯としての愛 3:14

そして、14節で「結びの帯として愛をつけなさい」と新しい人に勧めます。これも欄外の注では別訳として「すべての徳を結び合わせる」とあります。12, 13節で述べられたものを結び合わせる帯として「愛」を身につけなさいと教えるのです。この「愛」は皆さんご存じのように、「アガペーの愛」です。神の愛です。この愛は犠牲を伴った愛、見返りを求めない愛です。また、「~にもかかわらず」の愛です。パウロは言います。Iコリント 13:2-3をご覧ください。「また、たとえ私が預言の賜物を持っており、またあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じ、また、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません。:3 また、たとえ私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。」、パウロはこの後、愛について教え、そして、13節では「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」と結んでいます。

私たちが行ないをする、あるいは、主のために働きを為す、でも、私たちのうちに愛がないならそれらは値打ちのないものだと言っているパウロははっきりと教えるのです。だから、パウロはこのコロサイ 3:14で「結びの帯として愛をつけなさい」と言うのです。信仰の根本原因は「愛」です。ガラテヤ 5:6に「キリスト・イエスにあっては、割礼を受ける受けないは大事なことでなく、愛によって働く信仰だけが大事なのです。」とある通りです。

これらの特徴をすべて完全にもっておられたお方が「イエス・キリスト」です。

6. 結論

今日、私たちは「キリスト者とは？」ということ学んで来ました。それは「古い人を脱ぎ捨てて新しい人を着た者たち」でした。私たちは日常の生活の中で、服が汚れて古くなったなら新しい服に着替えます。外から、他の人から見えることには私たちは十分気を付ける者です。しかし、私たちのうちのことには気を付けないか、あるいは、無関心です。だから、まだ、この中にイエス・キリストを信じていない方がおられるなら、私はその方にお勧めします。「古い人を脱ぎ捨てて新しい人を着てください」と。IIコリント 5:17「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」、ヨハネ 3:3には「イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」」と書かれています。新しい人を着てください。

新しい人を着たキリスト者の皆さん、これは神の恵みです。だから、私たちはこのコロサイ書で教えられたように、パウロの勧めを実際の生活の中で行なっていくことが必要ではないでしょうか？最後に、キリスト者の皆さんにこのみことばを贈りたいと思います。ヤコブ書 1:21-22です。「:21 ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。:22 また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。」